

# 鹿市医狂壇



555 樋口 一風 選

## 兼題「支度(したつ)」

天

### 見栄を張つ所帯が傾びた嫁支度

(唱) 到頭屋敷く半分け売つ

(評) この句は見栄を張って豪華な嫁入り支度で、所帯が傾いたということを詠んであります。

昔の結婚は家同士の縁組も重要なことと考えていたので、娘に惨めな思いをさせないこと以上に、家の沽券にかかわるような嫁入り支度はできません。そこで無理をしても豪華な嫁入り支度になりましたが、無理が祟って家計が苦しくなつたという話。

人

### 親が叱つ学校ん支度き忙し朝

(唱) 父親の大声い子は泣つかぶつ

(評) 子供たちの朝は戦争です。母さんは朝食の支度は元より、子供や主人の弁当作りなど大変な忙しさです。子供たちはやっとな寝ぼけ眼で起きてきました。

教科書や登校の支度など手も付けておりません。そこで父さんは「早よせんな学校け遅るつが」と雷を落とします。これが我家の朝の情景でした。でも最近の子供ら登校の持ち物は多い様な気がします。水筒、体操着、運動靴など私などの頃とは大違いです。

地

### 遅せ支度き小まんか声で女房を叱つ

(唱) 後が怖かち弱虫亭主

(評) 出掛ける時間が来て運転席でいらして待っているのに、奥さんはまだお化粧中です。大声で催促すれば出てくるだろうが、怒ったらそれはそれは大変なことになるのは判っています。でも何か言わないと腹の虫がおさまりません。

そこで聞こえない程度の声で「はよせんか」と鬱憤を晴らします。何とも、いじましい亭主の話です。最近の薩摩隼人も意気地がなくなりました。

秀逸

### 晩酌ん肴ん支度か俺れさせつ

(唱) 我が飲んたつて思もごつすれば

味噌樽が出発の支度きや凄せ慌け

間け合わん支度の遅せた生まれつ

涙目で長男ん出発の支度くしつ

日の丸ん支度くしたどん第四位

旅支度あいもこいもち凄せ詰めつ

狂句道場

迷子札代わいケータゆ持たされつ

八十歳婆へ夢は何かち孫が尋つ

飲兵衛亭主しゅ脅せつくれち医者しえ頼ん

スキップで帰いな嬉し癌検査

人ち迷惑くかけんじ願げはびんころつ

気品有い句思もどん地が地邪魔をしつ

位牌ん亭主チョコを幾つも貰るだせつ

## 狂句募集

◎5号 題吟「全部(すっぱい)」  
締切 令和8年4月6日(月)  
◎6号 題吟「地震(なえ)」  
締切 令和8年5月7日(木)  
◇選者 樋口 一風  
◇漢字のわからない時は、カナで書いてご応募ください。選者が適宜漢字をあてさせていただきます。  
◇応募先 千八九二一〇八四六  
鹿児島市加治屋町三番一〇号  
鹿児島市医師会「鹿児島市医報」編集係  
TEL 〇九九一二六―三七三七  
FAX 〇九九一二五―一六〇九九  
E-mail: ihou@city.kagoshimamed.or.jp

人間誰でも間違いはあるもの、人の靴や下駄をはき違える場合もあろう。しかし、残つたものが、間違えられそうもない、似ても似つかぬ物であったり、残っているはずの、代わりのものがないこともある。おんぼろを履いて行つて、故意に良い物を履いて帰るのであろう。何のための参詣か分からなくなる。それを、「新しい自分の下駄は、きつと極楽に行つたのだらう」と諦めるあたり、お人よしで、信心深いのかも知れない。ユーモラス。

### 新け下駄あ極楽き行たか寺戻

上鍋 平句郎

### 薩摩狂句鑑賞 193

三条風雲児著 から  
(平成元年五月一日発行)

は「四位い」・「駄」は「駄き」・「傍」は「傍べ」のように変化します。全部の言葉がそうであるとは限りません。鹿児島弁を兼ねて使わない方には難しいと思いますが、気が付けてください。  
\* 今月の句の「味噌樽」は字のとおり味噌樽のことですが、昔の主婦は、でんと家に居座つて余り外出しなかつたので、「味噌樽」と比喩しました。  
\* 「借金」借金のこと、大隅地方で言う。

### 彼岸団子姑御仕込んの手が冴えつ

お節料理さえ買ってきて、すますような時代だから、彼岸団子を作つて重箱に詰め、親元へ持つて行くなどと言うことも、今では珍しいことなのかもしれない。ちらほら山桜の咲く山峡の田んぼ道を、姑仕込みの彼岸団子を提げて、胸をはずませながら、実家へ急ぐ姿が目にも浮かんでくる。肥えた口には物足りないかも知れないが、手作りの素朴な味もまた乙なものである。

### 薩摩狂句誌「渋柿」八五九号 雑吟から

(令和八年一月一日発行)

### 来てほしか来て欲しあなか觀光客

(唱) 大変し客で情緒は消えつ

### ちよっしもた止めた煙草を夢で吸つ

(唱) 正直な人じゃそや只ん夢

### 老後どま先ち思もたが最早最中

(唱) まだ青春ち思えば良か

### 内視鏡い厄介な奴がまた一ちや

(唱) モグラ叩つち前向き生きつ